

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 1月 12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670200763		
法人名	医療法人社団市野瀬和田内科医院		
事業所名	緑彩館		
所在地	富山県高岡市戸出市野瀬393-3		
自己評価作成日	平成27年11月30日	評価結果市町村受理日	平成28年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑彩館の職員は事業所開設以来長く勤務している者もいます。加齢と認知症のために大きなストレスを伴う方々を職員も環境の一部と考え生活環境の力で一人ひとりに安心感と居心地の良さを与え、本人らしい暮らし方を実現する支えになれるように努力しています。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成27年12月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者のできることを支援し、できない事を少し介助するような暮らしの中で、馴染みの関係を築き、畑仕事や生け花、食事の準備などで利用者の力を発揮してもらっている。また、恒例の緑彩館ミニ運動会や納涼祭などには、家族や地域の人達にも参加してもらい、一緒に玉入れを楽しんだり、流しそうめんを味わうなど、賑やかに交流を図り、家族や地域と信頼関係を築くように努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりが地域の中で生きがいのある自立した生活ができるよう日頃から話し合っています。日常ケアの中で、思いやりの心、いたわりの心、愛する心など「福祉の心6か条」を掲げ管理者と職員が常に話し合いながら実践に向けて取り組んでいます。	「戦後の豊かな生活を築いた高齢者に敬意と労りを持って報いる」という理念を原点に、職員は「福祉の心6か条」としてまとめ、理念を振り返りながら、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方に畑で採れたものや、庭の花をいただいたり、町内の獅子舞に訪ねていただくなど交流しています。	地域のボランティアグループの協力のもと、ミニ運動会や納涼祭を開いたり、近隣の人達から野菜やお花をいただくなど、地域の人達との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のときに地域の方の参加があるので認知症の症状や対応など話すようにし、理解を深めてもらうように努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ、2ヶ月に1回開催しています。日々の生活の様子や、行事内容の検討をしたり、メンバー同士で情報交換される場になっています。	地域包括支援センターの職員からは、地域との交流について賛同してもらったり、民生委員からは、気になる高齢者の相談を受けるなど、活発な意見交換を行って、サービスの向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員派遣事業を受け、事業所実情を見てもらい、サービスの質の向上や適正化を図るようになっています。地域包括支援センターの職員には、運営推進会議に参加してもらい、相談することもあります。	市が主催する「高岡市認知症安心ガイド」の研修に参加する中で、市の福祉施策について学んだり、事業所の現状を相談するなど、市との協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護推進員養成研修に参加した後、身体拘束を含め不適切なケアについて社内勉強会をし、利用者に合わせたケアができるように工夫しています。黙って外へ出られる方には付き添っています。	日頃から、身体拘束のない支援を実践しているが、「権利擁護推進員養成研修」に参加したことで、どんな時に起こりがちななどを事業所に持ち帰って職員間で話し合い、抑圧感のない自由な雰囲気をつくるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の考え方や職業倫理について勉強をし、虐待が起きる可能性に常に目を向け、不適切なケアを放置しない職員の関係づくりをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会のテーマにして職員と学ぶ機会を持っています。家族から相談があった時は応じ、地域包括支援センターに相談したり、必要な機関を紹介したりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に時間を取り、家族、本人に説明しています。いつでも疑問や不安に思うことを話してもらえる関係づくりに努力しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、日頃の様子を伝え要望を聞くようにして、不安の解消に努め、玄関に意見箱を置き無記名で自由に意見を書いていたき運営推進会議で検討する機会を設けています。	家族の面会中に食事の時間になれば、食事の様子を見てもらうなど、気づいたことは、何でも言ってもらおうように心がけている。また、職員ミーティングに同席する利用者もおり、皆で事業所をつくりあげるような雰囲気をつくっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の申し送りは毎朝・昼・夕と口頭と日誌で確認しています。報告事項は、随時管理者に伝え提案や意見は前向きに検討するようにしています。	日頃のケアの中での気づきによる、和式トイレから洋式トイレへの変更提案を取り入れるなど、職員が意見を述べやすい雰囲気をつくり、その意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々がやりがいを持って働いているため勤務の離職が少なく、利用者にとっても馴染みの職員なので安心できる環境になっていると思います。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症連絡協議会の研修に参加したり、職場内で研修を行ったりしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム連絡協議会に入会し、同業者と交流しています。勉強会に参加し、サービスの質向上のため取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人がどのように暮らしたいか希望を聞く時間を設けて家族と共に不安が少なくなるようにしています。センター方式を活用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時に、家族の悩みや望み、苦勞されていることなど聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、他に相談する機関(地域包括支援センター、他のグループホーム、特別養護老人ホーム)などの連絡先を紹介します。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬する気持ちを持ちながら、現状を受け入れてあげられる生活を共に作っていく努力をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運動会やお花見会、納涼祭などに家族に参加してもらい共に楽しみ、共に作り上げていく喜びを感じてもらおうようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症になってしまった方への接し方に戸惑いを感じておられる友人・知人の方が多いのですが、職員が会話の中に入り、和やかに過ごせる工夫をしたり、盆や正月に帰宅したり、外出したりして、親戚の方や知人と交流できるようにしています。	知人の訪問時には、写真を撮って部屋に飾ったり、親戚の集まりやお墓参りに家族の協力を得て、出かける際には、事業所の車椅子を貸すなど、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮しながら、居心地の良い時間を過ごせるように座席を工夫しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、次の施設への情報提供や相談員の方と話し合う場を作り、少しでも本人が不安なく行けるようにしました。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	すべての方が自分の思いを言葉に出来るわけではないので、生活の中で一緒に時間を過ごすようにし、本人の思いを汲み取るようにしています。また、職員が本人と一緒にやりたい事をそれぞれ考え、実行し、共に過ごす時間を作っています。	利用者と職員は、寝食を共にする中で、日常会話に留意したり、利用者の言葉にならない思いを仕草や表情などから感じ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報を聞いたり、これまで利用していたサービス機関から情報提供してもらったりして、生活歴や馴染みの暮らし方を把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量や水分量、排尿・排便チェックをし、本人のその日の状態や生活リズムを掴むようにしています。できる事やできない事を見極め、できる事はやってもらい、できない事は支援して、本人らしい自立した生活ができるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、できる事できない事を見極め、できる事をやってもらい、できない事を支援するようにケア会議で検討し、作っています。 本人が何を求めているのか、どんな暮らしを望んでいるのか、それを支援していきたいと思っています。	毎日の申し送りは3回行い、利用者の状態を確認し、職員間で情報を共有している。また、家族には面会時などに要望を聞いている。ケア会議などで、モニタリングを行い、色々な意見を出し合っ、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの介護日誌を作り日々の様子を観察、記録し、職員全員が目を通すようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お花見、ハイキングなどの外出のためにデイサービスのバスの協力をお願いしたり、デイサービスの方と交流したりしています。 家族の方の面会が食事の時間とぶつかった時は一緒に食べてもらったりしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	戸出警察署、戸出消防署に万が一の協力を依頼しています。町内ボランティアや民生委員の方々に、散歩をしている方を見かけたら連絡をもらうようにして自由に使ってもらっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが法人の医師をかかりつけ医として希望されています。 歯科医の往診の協力もあり、本人、家族も安心されていると思います。	隣接している法人の内科医を希望する利用者や家族がほとんどで、医療連携体制のもとで、医療面の安心につなげている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している医院から毎日看護師が訪問し、健康チェックをしています。職員も利用者も相談できて安心しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は情報提供し、家族が希望されれば、入院説明にも同行したりしています。退院計画については、医師の指示のもと相談しながら元の生活に戻れるように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で本人、家族の希望を聞くようにし、事業所としての対応をお話するようにしています。重度化した場合は、容態を家族に説明し、看護師、主治医と相談してもらうようにしています。	食事、入浴、排泄などについては、可能な限り支援しているが、点滴や酸素吸入など、医療面の処置が必要になった場合には、次の段階について、医師や家族などと話し合い、今後の方針を確認し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が対応できるように勉強会を開いています。定期的な訓練はしていません。転倒があった時の、介護者1人で毛布を使い移送する方法を訓練しました。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年戸出消防署と地域の方に協力を得て避難訓練を実施しました。今年は高岡消防署の防火講習を受け、通報・消火・避難訓練を行いました。	戸出消防署に相談に乗ってもらい、火災訓練に地域の人達の参加を得ることが出来るなど、地域との協力体制を築きながら、災害に備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症のため生活の場であらゆることが上手くできなくなってきた方へ、それぞれの方の身になって考え、声掛けや対応ができるように職員同士で情報を共有しながら支援しています。	利用者の自尊心を損ねるような対応の具体例を話し合い、馴染みの関係の中にも馴れ馴れしくならず、利用者を敬うケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの方の理解力に合わせたコミュニケーションの方法をとっています。 お風呂や今日着る服等、日常なことについて本人が自己決定できるように接しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、レクリエーション等の時間を一応決めていますが、その日の天気や体調に合わせて変更したり、昼寝をしたり自由に過ごしてもらうようにしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝着る服や外出時など自由に選んでもらえるようにしています。自分で決められない方には職員が、選んでもらえるような対応をするように努力しています。髪をとかず声掛けなど気を遣ってもらうようにしています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や調理等、それぞれのできる力に合わせて役割を持ってもらい、利用者と職員と一緒に食事を楽しむようにしています。 後片付けも座ったまま、茶碗やお盆などを拭いてもらっています。	利用者のその日の体調に合わせ、食べやすいように食事形態を工夫し、口から食べる喜びを感じてもらうなど、利用者のペースに合わせてゆっくりと食事を味わう雰囲気をつくっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を記録し、体調管理の指標にしている。咀嚼力や歯の状態により副食の形態を変えて栄養確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、それぞれの方に応じた口腔ケアの方法で支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけ自立した方法で排泄できるように、トイレ誘導時間、パットの選択を工夫しています。	排泄の自立が、生きる意欲や自信につながるよう、自尊心に配慮しながら、トイレでの排泄支援に努めている。また、利用者の状態に合わせたパット類の使用にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方の排便チェックシートを作成し、水分補給したり散歩を支援したりして自然排便できるように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂は毎日沸いていて、週に2回ほどずつ入ってもらっていますが、電気温水器なので、希望があればいつでもシャワーもできます。利用者1人に1人の職員が付き、入浴ケアマニュアルを作っ、誰が入浴担当になっても同じようにケアできるようにしています。	利用者の習慣や希望を活かした支援ができるように、利用者ごとの入浴ケアマニュアルをつくり、安全な入浴支援につなげるとともに、入浴が、利用者のリフレッシュや力の発揮の場となるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れない方とは一緒にお茶を飲んだり、眠りにつくまで傍らに付いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の用法をファイルし理解するようにしています。服薬介助をしたり、看護師に報告したりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人ができる事を支援し、できない事を少し介助するような生活をしています。畑仕事、生け花、食事作り等、本人の力を生かせる場面を提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて散歩に出たり、花見やおとぎの森(公園)に出かけるときは、デイサービスのバスを出してもらい、家族も同行されたりします。 個人的な希望では家族や友人の方と外出を楽しまれています。	事業所周辺の田んぼの様子を眺めながら散歩したり、近くのおとぎの森公園に行き、春のバラ、秋のバラを堪能し、バラの香りに包まれたりしている。また、市野瀬地区の獅子舞を見物し、獅子と記念写真を撮るなど、戸外で過ごす機会を多くつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、本人が自分でお金を持っておられ自由に使っておられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話をかける支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節を感じられるようなおやつを作ったり、行事の写真を飾ったりしています。ダイニングキッチンでは食事の音や匂いを感じることができ、部屋の表札やトイレ「便所」など看板をつけて混乱が少なくなるようにしています。	利用者が多くの時間を過ごすリビングは、ソファの配置や季節を感じることができる装飾品などに工夫し、安心感のある空間をつくっている。また、キッチンから流れる味噌汁の匂いや、大根を切る音など、心地よい五感刺激となるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いてちょっと休めたり、和室で寝転んだり、ひとりで過ごせない方は事務所に居たりと、思い思いの場所で過ごしていただくようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの品を持ち込んだり、家族の写真を飾る等本人の自由に使っていただいています。	共同生活を送る中での居室の役割を大切に考え、自宅との違いによるダメージを少なくするため、使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、利用者が落ち着いて過ごせるような居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差のない作りになっていて、歩行機能が衰えてきた方は手すりが使えるようになっています。安全に移動されるように見守りをしたり、手をつないでいます。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 緑彩館
 作成日 平成 28年 1月 20日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		新人職員研修計画が作られていない。	新人職員研修計画の作成	育成目標を立て、期間ごとの達成目標を作り、新人や中途採用職員の研修に使用する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。